

足利市の医療・福祉を考える!!

ニュースレター vol.2

◇発行日／2010年5月
◇編集・発行／
足利市の医療・福祉
を考える議員
◇連絡先／
下記に表示

福祉予算後退の中で 市民の声が

予 算 書 の 中 身
を 考 え る

「愛のひと声事業」を復活させました



事業仕分けでは廃止決定となった「愛のひと声事業」を、このニュースレター1号で取り上げたところ、市民から大きな反響がありました。また、私たちも議会で強く復活を訴えました。その結果として、2月22日の記者会見では、対象となる高齢者に10円の自己負担(市15円・事業者10円負担)の改悪案での復活を発表し、さらに議会から懸念の声が上がると、わずか1週間後の3月議会初日(3月1日)には、突然、22年度予算案を無視し、高齢者の負担金10円は当面市が負担すると表明。市の方針は**廃止**→**一部負担**→**復活**と二転三転しました。これは、事業の

ふれにふれた
「愛のひと声事業」

廃止同然 敬老祝い金の改悪

重要性、市民に与える影響の大きさを十分に検証しないまま、削減ありきで事務的に処理しようとした結果といえます。

「敬老祝い金」は、平成20年度から85歳、90歳、95歳、100歳以上の方に敬老祝い金として1万円を支給していた事業ですが、開始からわずか2年で100歳の方のみに3万円を支給する方式に改悪されました。この議案は、民生教育常任委員会では否決されましたが、本会議では13対13の可否同数となり、議長の決裁により可決されました。

現在の日本の繁栄は、今生きている私たちだけで作り上げたものではなく、過去(祖先)から現在(私たち)、そして未来(子孫)へ引き継ぐ歴史意識をもった生命の連続性の中にあります。こういった意味からも、長寿のお祝いと感謝の気持ちを表す事業でしたが、100歳までご長寿いただくことをお祈りするしなくなりました。いったい何人の方々が対象となるのでしょうか?非常に残念なことであると考えます。

これで良いのでしょうか?
足利市の高齢者福祉



その他、 後退した福祉施策

介護慰労金給付事業

国が進める在宅介護の推進を踏まえ、要介護状態となった高齢者を在宅で介護する家族の経済的負担を軽減してきた事業ですが、マイナス31・5%と大幅に予算を削減されました。

「砂時計」 「活き街工房」の廃止

授産施設製品の販売を通じて、在宅の障がい者の就労訓練と社会参加の場であった「砂時計」が廃止されました。あわせて、同じビル内にあった中心市街地の交流拠点「活き街工房」も廃止され、中心市街地のシヤッターがまた閉まりました。足工大の学生が空き店舗対策として活動し、成果をあげていただけに、街と若者、二つの活力を奪ってしまうことになりました。

愛のひと声事業とは

週5日間、乳酸菌飲料を一人暮らしの高齢者のお宅にお届けし、安否を確認したり、話し相手にもなっていたく事業です。乳酸菌飲料を配達する企業には、社会貢献として賛同していただいています。

また、対象となる高齢者の方々からは、「不安の解消につながる」と喜ばれています。

多くの方々の声をお寄せいただき、本当にありがとうございました。

足利市が抱えている様々な課題の“真実”を、市民の方々に伝えたい。その思いから、このニュースレターが誕生しました。1号で取り上げた「仕分け事業による福祉の切捨て」や「新足利日赤病院の調剤薬局問題」には、大きな反響をいただきました。市民の皆様の声が「愛のひと声事業」を存続させたと言っても過言ではないと思います。今後もこのニュースレターが、市政に対する正しい判断の材料になることを願っております。また、ご意見やご要望等がございましたら、下記の議員までご連絡をいただけますようお願い申し上げます。

発行者 … 足利市の医療・福祉を考える議員

帆足 章・西田 智男・渡辺 悟・柳 収一郎・大須賀幸雄・荻原 久雄・栗原 収・長岡 正幸・加藤 正一
(☎41-7767) (☎41-7694) (☎42-6768) (☎21-0027) (☎62-5533) (☎72-5193) (☎72-8292) (☎22-0018) (☎62-0054)